

鶴田町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当町の水田面積に占める主食用米の割合は約 54%で、次いで、備蓄米、飼料用米、大豆、加工用米、WCS用稲、その他（野菜・花き・果樹）、小麦の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

主食用米の需要が減少する中で、高収益作物等へ転換を促進する必要がある、特に農業者がこれまで蓄積してきた稲作の多収技術や既存農業機械を有効に活用できる飼料用米等の非主食用に関しては、今後の水田面積の維持や農業者の所得確保を図っていく上で重要な作物となってくる。

そのほか、麦は単収の向上が大豆は生産性の向上がそれぞれ課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

町の約 1,800ha（不作付地含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

（1）主食用米

需要に応じた生産を基本として、売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保し、業務用米の需要の高まりに応じた生産と、長期に渡る安定した需要の確保に向け、実需者との複数年の出荷契約などの事前契約を推進する。

（2）非主食用米

需要に応じた水田農業の確立を図るため、水田活用の直接支払交付金を最大限に活用しながら、水稻以外の作付けが困難な水田を中心に、飼料用米、WCS用稲、加工用米、備蓄米等の非主食用米の作付けを推進する。

ア 飼料用米

主食用米の需要が減少する中、県設定の産地交付金を活用し農業者がこれまで蓄積してきた稲作の多収技術や既存農業機械を有効に活用できる飼料用米の多収品種の生産拡大を図る。

また、一部農業者で固定需要者と契約し、飼料用米の多収品種生産は場の稲わらを飼料として畜産農家へ供給しているが、契約先ではより一層の供給を求めているため、地域設定の産地交付金を活用し耕畜連携の取組を推進して、稲わらを飼料として供給できる飼料用米の多収品種の作付拡大を図る。

イ 米粉用米

固定需要者と契約栽培を行っており、一定の需要量があるが、需要者から安定供給が求められている。地域設定の産地交付金を活用し生産性向上のための取組を実施して生産性向上、作付拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

新市場開拓用米は、将来を見据えた販路として有望なことから、県設定の産地交付金を活用し輸出用米等の取組の拡大を図る。

エ WCS用稲

固定需要者と契約栽培を行っており、一層の供給を求められており、地域設定の産地交付金を活用し生産性向上等に関する技術を取組むことにより、増収及び

面積拡大を図る。

オ 加工用米

複数年契約の推進により、安定した生産を目指す。

カ 備蓄米

備蓄米については、非主食用米の取組の一つとして、需要状況に応じて対応していく。

(3) 麦、大豆

ア 麦

麦は、地域設定の産地交付金を活用し排水対策、土壌改良等の単収技術の励行による高品質・安定生産を図る。なお、排水不良などの栽培条件の厳しいほ場では、非主食用米への転換を誘導していく。

イ 大豆

大豆は、県設定及び地域設定の産地交付金を活用し、輪作体系の導入や排水対策等の基本技術の徹底、団地化による作業の効率化等による生産性向上を推進し、高品質・安定生産と作付け拡大を図る。

ウ 飼料作物

該当なし

(4) そば、なたね

該当なし

(5) 高収益作物（野菜・花き・果樹）

ア 野菜、花き

野菜、花きは、農協、市場のほか、地域や道の駅の直売所及び管内学校給食などから多様な種類の作物と供給量を求められている。特に道の駅直売所が平成 30 年 4 月に増築（床面積：約 2.5 倍）したこと、地域設定の産地交付金を活用し、より一層の作付面積の拡大を図る。

また野菜、花きのなかでも、特にアスパラガス、ニンニク、リンドウは小規模ほ場においても、ある程度の農業所得が得られることや、水稻栽培との作業競合が少ないため町の振興作物に位置づけ、振興を図っており、農協と道の駅等の需要があるため、作付面積の拡大を図る。

イ 果樹

ぶどう（スチューベン）とりんごは、主食用米と並ぶ基幹的高収益作物であることから、地域設定の産地交付金を活用し、作付誘導を図る。

(6) 畑地化の推進

該当なし

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の 作付面積 (ha)	平成 30 年度の 作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の 目標作付面積 (ha)
主食用米	966. 6	1035. 4	1011. 7
飼料用米	120. 7	119	122. 5
米粉用米	0. 2	0. 2	0. 3
新市場開拓用米	1. 6	1. 6	2. 0
W C S 用稲	25. 6	30. 3	40
加工用米	101. 0	99. 3	102. 2
備蓄用米	247. 1	172. 9	178
麦	4. 5	2. 5	3. 0
大豆	118. 3	124. 2	125. 0
飼料作物	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	11. 4	11. 6	12. 3
アスパラガス	0. 2	0. 2	0. 3
ニンニク	2. 5	2. 6	2. 7
リンドウ	0. 3	0. 3	0. 5
その他の野菜	5. 9	5. 9	6. 1
その他の花き	0. 3	0. 3	0. 3
果樹	2. 2	2. 3	2. 4

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	現状値	目標値
1	麦	麦単収向上助成	作付面積 単収	(29年度) 4.5ha (29年度) 149 kg/10a	(32年度) 3.0ha (32年度) 196 kg/10a
2	大豆	大豆生産性向上助成	作付面積 生産費)	(29年度) 118.3ha (29年度) 26,394 円 /10a	(32年度) 125.0ha (32年度) 24,537 円/10a
3	アスパラガス	高収益作物作付助成	作付面積	(29年度) 0.2ha	(32年度) 0.3ha
	ニンニク			(29年度) 2.5ha	(32年度) 2.7ha
	リンドウ			(29年度) 0.3ha	(32年度) 0.5ha
4	米粉用米	米粉用米生産性向上助成	作付面積	(29年度) 0.2ha	(32年度) 0.3ha
			10a 当たり単収	(29年度) 678 kg/10a	(32年度) 690 kg/10a
5	WCS用稲	WCS用稲生産性向上助成	作付面積	(29年度) 25.6ha	(32年度) 40.0ha
			10a 当たり単収	(29年度) 2,703 kg/10a	(32年度) 2,890 kg/10a
6	飼料用米生産ほ場の稲わら	わら利用（耕畜連携）	飼料用米作付面積	(29年度) 120.7ha	(32年度) 122.5ha
			稲わら利用面積	(29年度) 6.0ha	(32年度) 6.5ha
7	振興作物（野菜・花き・果樹（別表5））	振興作物助成	作付面積	(29年度) 8.4ha	(32年度) 8.8ha